

発表題目：日中同形語「工作」の異同に関する一考察

アブストラクト

1. 研究目的

「工作」は誤解しやすく、通時的観点からも非常に特殊な言葉であるが、日中同形語に関する辞書や専門書においても解説はごく簡単で、研究も概説的な論考が多く、それらの考察には厳密さを欠く。

本研究は共時態で日中同形語「工作」の現代の意味の異同を比較分析した上、通時態でその語源と日中双方の使用実態の変遷を考察することにより、異同が生じた原因を明確にする。また、先行研究の語釈や論考の修正も試みる。

2. 先行研究

これまで「工作」を日中同形語の視点から研究されたものは以下の3種類に分けられる。

- ①辞書類：王・王（1995）、黄・林（2004）、秦（2005）、王（2007）
- ②概説類：張（2004）、続（2007）
- ③専門類：平岡（1935）

3. 研究方法

「工作」の語源の確定、意味の変遷と例文の収集については、主に次の資料を使用した。

①日本の『日本国語大辞典』『大漢和辞典』、中国の『漢語大詞典』『辞源』、②中国古典テキストデータベース、③北京日本学研究中心中日対訳コーパス、④青空文庫、⑤インターネットのニュース、ブログ、談話室、⑥漢語の誤用に関する論文や著作。

4. 研究結果と結論

「工作」の語源は『後漢書・皇后紀上・和熹鄧皇后』にあり、本来の意味は「①土木・建築工事」である。それから次第に「②製造、③働くこと（肉体労働・頭脳労働を含む）、④仕事・活動・業務、⑤職人」という意味を持つようになった。

明治初期に、①②を意味する「工作」は中国の英華辞書や洋学書を通じて日本に伝わった。昭和初期に、④を意味する「工作」は主に経済、外交、軍事に関する新聞記事を通じて日本に再移入され、当時の流行語になった。（「字形一括、意味分割」の特殊な輸入過程と言える）また、短い「意味的に中立的な時期」を経て、「裏の、陰で行なわれるもの」というマイナスのニュアンスが加わった。それに対し、中国語における「工作」は⑤の意味はすでに消失し、①②も次第に消失してしまい、③④の他に、「機械が動く/作業をすること」（③の転義）と「職業」（⑤の派生義）の意味を持つようになり、意味的に中立な語として使われている。

全体的に見れば、中国語の「工作」は日本語の「工作」より、意味範囲・使用範囲ともに広く、歴史的変遷も大きかったといえる。

参考文献

- 王 蜀豫 2001 『日中語彙の対照的研究』 四川文芸出版社
張 麟声 2004 『日中ことばの漢ちがい』 くろしお出版
平岡伴一 1935 「“工作”といふ流行語」『外来語研究』 vol. 3-1
山田孝雄 1940 『国語の中における漢語の研究』 賓文館